リレートーク

紹介者

西川 久仁子氏
スーパーナース
取締役社長

柏木 斉氏
リクルート
取締役社長

#155

落語目線。

景気が悪いときには、お笑いが流行ると聞きます。その影響だけでもないと思いますが、数年前から落語ブームとも言われています。私は落語が好きで、ときどき寄席にも出かけますが、最近は、ご年配方に混じって、若いお客様の姿も見かけます。

古典落語の時代設定は、江戸時代のことが多く、二本差し（武士）の「斬捨て御免」に、町人は逆らえない厳しい身分制度がありました。現代は「格差社会」と呼ばれ、身分の固定化だと問題視されています。しかし古典落語の世界には、生まれた瞬間に、身分や、果ては職業まで決まってしまう、そのような状況でも逞しく生きる人がたくさん登場します。

登場人物は、知ったかぶり、吝嗇（りんしょく）、悋気（りんき）、強欲、様々な人間の業の面を表出させ、そこから騒動が始まります。現代人から見ると、人間性を剥き出しにして生きる姿に少し抵抗感もありますが、衝突を避けずに言いたいことを言い合い、素直に感情を表せる人たちが微笑ましく、羨ましくも思えてきます。落語には、身分が高くても、人の情けや常識、世間を知らなければ非難し、そして自分よりも弱い立場の者には、自分がたとえ苦しくても、なんとか支えよう、助けようとする優しさがあります。落語を聞いていると、「不景気も悪くない」とも思えてくるから不思議です。社会における身分や格差に囚われない、人間としての幅や度量の深さを図る物差しを、自分たちの中に持ち、自立している姿に、いつも感心し、感動を覚えます。

GDPや失業率と、定期的に発表される経済指標の分析は重要ですが、豊かさは、自分の心の持ちようであることを落語に教えてもらっているような気がします。他の人を羨み、愚痴をこぼすのではなく、身の丈に合った生活の中で、楽しく過ごす工夫を凝らす。誰かに羨ましがられたり、褒められるためではなく、自分が納得する、満足できるまで、物事をやりきる。短期的な見返りを求めない姿に、今日よりも明日に希望をつなぐ大切さを感じます。

次回は　**船津康次氏**（トランスコスモス 取締役会長兼CEO）にご登場いただきます。